

| 平成 28 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス | | | | | |
|--|---------------------|--|------|-----|--------|
| 教科目名 | 総合国語 | 担当教員 | 宮口典之 | | |
| 学年学科 | 3年 E・D学科 | 通年 | 必修 | 2単位 | |
| 学習・教育目標 | (A-1) 20% (C-1) 80% | | | | |
| 授業の目標と期待される効果： 第2学年までの学習成果をふまえ、さらに国語の学習を発展させる。具体的には、以下の能力の育成を目標とする。 ① 漢字や語句の知識を増やす。 ② 文脈の中から語句の意味を読解する。 ③ 論理の展開を理解する。 ④ 要旨を正確に把握し、文章を要約する。 ⑤ 文章の背景となる社会や文化について関心を深める。 ⑥ 適切な日本語で自分自身の考えを表現する。 | | 成績評価の方法： 前期：中間試験 100点＋期末試験 100点＋課題・小テスト 100点 後期：中間試験 100点＋期末試験 100点＋課題・小テスト 100点 学年：前・後期の重みを等しくして合計した上で、得点率(%)で成績評価を行う。 達成度評価の基準： 教科書レベルでの授業内容の理解について、以下の項目に関する試験や課題を課し、それぞれに対して6割以上の正答レベルまで達していること。 ① 漢字や語句の知識が身についたか。 ② 論理の展開を理解し、文章の内容を要約できたか。 ③ 日本の社会や文化についての関心は深まったか。 ④ 適切な日本語で表現をすることができたか。 | | | |
| 授業の進め方とアドバイス： 授業は、教科書と板書を中心に行うので、各自学習ノートを充実させること。 授業中に出される課題には真剣に取り組むこと。 参考となる資料については、授業中に適宜紹介するので、各自で参照すること。 | | | | | |
| 教科書および参考書： 高等学校標準現代文B（東郷克美他・第一学習社 2014年） <div style="text-align: right;">他に辞書等</div> | | | | | |
| 授業の概要と予定：前期 | | | | | ALのレベル |
| 第 1回：随想（1） | | | | | |
| 第 2回：随想（2） | | | | | C |
| 第 3回：随想（3） | | | | | |
| 第 4回：小説（1） | | | | | C |
| 第 5回：小説（2） | | | | | |
| 第 6回：小説（3） | | | | | C |
| 第 7回：評論（1） | | | | | |
| 第 8回：中間試験 | | | | | |
| 第 9回：評論（2） | | | | | C |
| 第10回：評論（3） | | | | | C |
| 第11回：詩（1） | | | | | |
| 第12回：詩（2） | | | | | B |
| 第13回：詩（3） | | | | | |
| 第14回：評論（4） | | | | | C |
| 期末試験 | | | | | |
| 第15回：評論（5） | | | | | |

| 授業の概要と予定：後期 | ALのレベル |
|---------------|--------|
| 第16回：評論（6） | |
| 第17回：小説（4） | C |
| 第18回：小説（5） | |
| 第19回：小説（6） | C |
| 第20回：短歌・俳句（1） | |
| 第21回：短歌・俳句（2） | C |
| 第22回：短歌・俳句（3） | |
| 第23回：中間試験 | |
| 第24回：評論（7） | C |
| 第25回：評論（8） | C |
| 第26回：評論（9） | |
| 第27回：小説（7） | B |
| 第28回：小説（8） | |
| 第29回：小説（9） | C |
| 期末試験 | |
| 第30回：まとめ | |

評価（ルーブリック）

| 達成度 評価項目 | 理想的な到達 レベルの目安 （優） | 標準的な到達 レベルの目安 （良） | 未到達 レベルの目安 （不可） |
|-------------|---------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------|
| ① | 漢字・語句に関する問題をほぼ正確（8割以上）に解くことができる。 | 漢字・語句に関する問題をほぼ正確（6割以上）に解くことができる。 | 漢字・語句に関する問題を解くことができない。 |
| ② | 論理展開の理解・要約に関する問題をほぼ正確（8割以上）に解くことができる。 | 論理展開の理解・要約に関する問題をほぼ正確（6割以上）に解くことができる。 | 論理展開の理解・要約に関する問題を解くことができない。 |
| ③ | 日本の社会や文化に関する問題をほぼ正確（8割以上）に解くことができる。 | 日本の社会や文化に関する問題をほぼ正確（6割以上）に解くことができる。 | 日本の社会や文化に関する問題を解くことができない。 |
| ④ | 適切な日本語による表現をほぼ正確（8割以上）に行なうことができる。 | 適切な日本語による表現をほぼ正確（6割以上）に行なうことができる。 | 適切な日本語による表現をほぼ正確に行なうことができない。 |